

国際協力業務展望・国

講座1

ODAの世界 —お互いの安心を求めて— 谷岡 潔 (JECK会員)

世界人口63億、そのうち途上国で、そのうち10億は絶対的貧困下にありますが、自然災害やグローバリゼーションのある側面は、様々な困難をこれらの人たちに齎すことがあります。

それら負の部分但至少でも和らげ、自立的発展への道に手を差し伸べるのが人の務めであり、ODAの役目です。

一方、'国際協力は先進国の責務であり、途上国の繁栄は先進国自身の利益に繋がる'(DAC新開発戦略・1996.5)との大儀があります。わが国ODAスキームも2008年から新JICAに一元化され、国家安全保障会議(近く発足する日本版NSC)とも連携をとりながら、進められることになるでしょう。

JECK会員 谷岡 潔氏の発表



ODAはDAC主要国US\$ 80 billion (2003)、わが国1.45兆円(2005、但し、イラク等債務救済を除くと9.451億円)の規模です。そして、政治的・経済的・社会文化的国際協力の形で、複合的に組み合わせられ実施されています。

これら国際協力への関与には沢山の選択肢があります。本日研修会参加の方々、個人々々として、専門知識と技術を磨きながら、国際協力活動

の現場に行く時、'お互い(DonorとRecipient)が安全・安定・繁栄=安心の受益者となる世界を求め、を一つの心構えにしては如何でしょうか。そして、喜怒哀楽多々ありますが、'自分が役に立つことの幸せ感'、をしみじみ味わってみては如何でしょうか。

講座2

求められる協力的分野・専門性・業務範囲 加藤 博通 (JECK会員)

JECK会員 加藤 博通氏の発表



国際協力の様式には、ODA(政府開発援助)とNGO(非政府組織)があるが、ここではODAによる、人的協力を中心に述べる。

協力的分野は人道支援、インフラ整備、産業開発支援をはじめあらゆる分野にわたっているが、「青年協力隊」は2005年度、4372人が76ヶ国、7分野(農林水産、加工、保守操作、土木建設、保健衛生、教育文化、スポーツ)約140種の職種にわたり派遣されている。

ODAは原則として対象国からの要請に応じ、その分野、専門性、期間、協力方法により、ボランティアとして「海外協力青年隊」、「シニア海外ボランティア」によるか、「専門家」として協力するかの方法がある。

ボランティア協力者は39歳以下の場合「青年協力隊員」、40歳から69歳までは「シニアボランティア」として、1~2年受入国の人々と生活・労働をともにしながら協力活動をおこなう。専門家は主として技術移転が目的であり、その専門家が帰国後もその技術が持続的に現地に継承されることが要求される。

人的国際協力は、先ず対象国の歴史、現状、習慣を理解し、目線を合わせ「やってみせ、言ってみせて、させてみせ、褒めてやらねば人は動かじ(山本五十六)」を肝に命じて活動することが肝要と思われる。

講座3

JICAでの業務体験 石原 平八郎 (JECK会員)

ケニア1978-1981(2年10ヶ月)、スリランカ1994-1997(3年)、ケニア1998-2001(3年)、インドネシア2001-2003(2年)、ネパール2003-2005(2年)合計12年10ヶ月に亘り、途上国の上水道分野でJICA専門家として活動してきた内、至近のネパールを事例に上水道専門家としての活動内容を説明した。

派遣国からの要請とその内容を精査し、当該国の上水道の実態を把握した後、カウンターパートと協議の上立案した業務計画の遂行過程を事例を基に説明した。

具体的な成果としては、都市部上水道整備計画政策の策定とその普及活動、全国上水道整備計画の立案、首都カトマンズ上水道施設実態図(50mm以上の配水管網のマッピングを含む)の作成、カトマンズの地下水水質調査により、当該国では初めて深井戸の約60%にWHO基準値以上のヒ素の存在を確認し、今後の地下水利用に警鐘を鳴らした。



JECK会員 石原 平八郎氏の発表

研修参加者からのお便り

JECK事務局 谷保 茂樹 様

先日の「国際協力業務展望・国際協力業務入門ガイド」及び懇親会では大変お世話になりました。私たち大学生を快く迎え入れてくださり「Peace News」メンバー一同感謝申し上げます。

勉強会のお話は現場の視点、現場の生の声ということで非常に感じる事が多くあり、考えさせられることがいくつもありました。今後国際協力について考えて、行動していく中で今回の勉強会を活かせるよう、メンバー同士で共有を図り、より一層深めていきたいと思っております。

懇親会では勉強会では聞くことのできなかつた、大変貴重なお話を聞かせていただくことができ、大変有意義な時間を過ごさせて頂きました。滅多に体験できない場を提供していただきありがとうございます。

まだまだ未熟な私たちではありますが、今後も関心を持って、ご指導、ご協力頂ければ幸いです。今後も宜しくお願致します。



以上

「Peace News」代表
横浜市立大学国際総合科学部
三橋 圭三